

第 102 回大腸癌研究会 病理委員会 議事録

日時：令和 7 年 1 月 30 日（木）午前 10：00～11：30

場所：別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ）3 階 国際会議室

議長：菅井 有

出席者（敬称略）：新井富生、市川一仁、上杉憲幸、河内洋、小嶋基寛、岸本光夫、坂本直也、菅井有、杉本亮、牛久哲男、八尾隆史、斎藤彰一、下田将之、門松雄一郎、山田一隆、森永友紀子、村田幸平、味岡洋一、橋口陽二郎、藤島史喜、市原真、上野秀樹、宮沢善夫、小池雅彦、笹原有紀子、金子明央、村上圭吾、後藤祐介、清水孟、中原健太、藤吉健司、佐藤美信、Naohiko Akimoto（33 名：on site 30 名、web 3 名）

会議内容

1. 神経内分泌腫瘍の組織分類および T 分類について（河内）

前々回の病理委員で議論された Carcinoid tumor/NET の併記について了承された。河内先生から提示された“Carcinoid tumor を残す理由”に関して意見のある委員は 2 週間以内に河内先生にメールする事となった。NEN、NET、NEC の記載に関して、WHO 第 6 版の記載を考慮し小嶋先生と河内先生でとりまとめを行い、次回報告していただく。NET の T 分類に関しての内容は了承された。

2. 取扱い規約に掲載する虫垂の項について（岸本、八尾、村田）

岸本先生から掲載案が提示され、神経内分泌腫瘍に関しては WHO 第 6 版の状況に準じて後日変更する。粘液性腺腫の点など、継続審議となった。引き続き、岸本先生と八尾先生にまとめていただき、次回最終案を提示していただく。図譜に関して、岸本先生、八尾先生が主導し病理委員会にお願いする方針とした。腫瘍グレードについては、新井先生と連絡し再度報告していただく。

3. 臨床的に T4b と診断して合併切除するも病理学的に他臓器との境界が不明瞭となっている場合の壁深達度の記録改定案について（上野）

上野先生から深達度と標本の取扱いに関して改訂案が提示され、説明頂いた。臨床的 T4b/病理的 T3 に関して別カテゴリーとするか、記載で表記するか議論され、規約改定委員会で再度検討し、次回決定する。検体の取扱いについて、漿膜剥離断端に関してはインキングの内容を再度検討し、次回最終案を提示していただく。切り出しについての文言は、各委員で確認し改めて検討する。

4. 小腸癌取扱い規約の病理図譜について（河内、橋口）

疾患の候補と割り当てが行われ、進捗を提示してもらった。不足分は引き続き委員に収集をお願いし、症例が無ければ記載しない方針とした。橋口先生より肉眼型および組織所見の要望が挙げられた（3 型の肉眼型、Ly、V、簇出、Ex の典型例）。簇出、Ex に関しては上野先生から写真を提供して頂く方針となった。締め切りは今年 7 月出版予定の希望があり、早急に進める方針とした。図譜の説明は担当した委員にお願いする。なお、撮影者の名前も付記する。（文責 岩手医大 杉本亮）